

1 章 新構造，新形式橋梁

新構造、新形式橋梁 WG の活動・成果報告について

本 WG では、新構造、新形式の橋梁を提案することを目的として活動を行った。ここでは、構造設計、景観設計の自由度が高い歩道橋を検討対象とすることとした。活動にあたっては、具体的な架橋サイトを想定して検討を行うために、関係者の協力を得て、仮想の架橋サイトとして、都内に以下の2箇所を選定し、架橋条件などを整理した。

サイト1. 隅田川

- 架橋位置：隅田川の永代橋－相生橋間（中央大橋周辺）
- 川幅など：両護岸間の幅：約 240m（橋長），川幅：約 180m
- 航路制限：水上交通のために，高さ 5.5m，幅 60m のクリアランスを確保する。
- 架橋目的：門前仲町方面へのアクセスを向上するため（現在は，相生橋または中央大橋経由となり，かなり離れている）
- 周辺状況：月島側は，護岸の公園の整備とともに超高層マンション群として再開発されている。対岸の越中島側は，越中島公園および倉庫として利用されている。

サイト2. 新川

- 架橋位置：江戸川区新川の宇喜田橋－新渡橋間（約 800m）※この区間の新川直下に，江戸川区営の地下駐車場がある（全国初）
- 川幅など：両側の護岸間の幅：25～39m（平均 30m），川幅：平均約 25m
- 航路制限：水上交通のために，2.5m のクリアランスを確保していたが，現在，船の就航はなく，環境水路として機能しているため特に制限はない。
- 架橋目的：船堀駅方面への通勤通学などのアクセスを向上するため（宇喜田橋－新渡橋間は約 800m あり，少し離れている）
- 周辺状況：両岸は，親水公園（平成 11 年江戸川区整備）となっている。周辺は主に住宅地として利用されている。

これらの架橋サイトに相応しい新構造、新形式歩道橋について、提案し、検討を行った。あわせて、国内外の新構造、新形式橋梁の事例収集により、最近の動向について分析、調査を行った。その結果、各サイトに対して5つの案が示された。主に、コンセプトやイメージを中心とした提案内容となっている。これらの成果については、鋼橋技術研究会のウェブサイトで紹介されている。

以上